

議長	副議長	事務局長	次長	係長	係員

平成29年10月30日

三沢市議会

議長 小比類巻 正規 殿

三沢市総務文教常任委員会

委員長	佐々木	卓
副委員長	下山	光
委員	田嶋	孝
委員	澤口	正義
委員	太田	義之
委員	山村	博
随行員	岡浪	彌三

(事務局主事)



行政視察の復命について

先に行政視察した結果について、下記のとおり復命いたします。

記

1 目的 総務文教常任委員会行政視察

2 期間 平成29年10月17日（火）から19日（木）まで

3 視察先 兵庫県豊岡市・京都府京丹後市

4 観察概要－1【兵庫県豊岡市】

(1) 訪問日時 平成29年10月18日(水)午前9時30分～

(2) 対応者 議会事務局長 松本 幹雄 氏

議会事務局主査 伊藤 八千代 氏

担当課 教育委員会こども教育課 課長 能登 琢也 氏

教育委員会こども教育課 主幹

兼教育研修センター 所長 森山 健二 氏

(3) 観察項目

豊岡市小中一貫教育「豊岡こうのとりプラン」について

(4) 概要

(豊岡市の概要)

豊岡市は、平成17年4月1日、兵庫県の北東部に位置する1市5町（豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町）が合併してできたまちである。

市域の約8割を森林が占め、北は日本海、東は京都府に接し、中央部には母なる川・円山川が悠々と流れ、海岸部は山陰海岸国立公園、山岳部は氷ノ山後山那岐山国定公園に指定され、多彩な四季を織りなす自然環境に恵まれている。

平成17年9月には、国指定の特別天然記念物・コウノトリが自然放鳥され、人里で野生復帰を目指す世界的にも例がない壮大な取組みが始まった。

産業は、農林水産業、観光業などが盛んで、特に観光業では、全国的に有名な城崎温泉をはじめ、西日本屈指の神鍋スキー場、但馬の小京都・出石城下町などを有し、年間の観光客は470万人以上にのぼっている。また、地場産業としては、全国の4大産地の一つであるかばんや出石焼などの生産が行われている。

人口 83,554人(平成29年4月1日現在)

面積 697.55平方キロメートル

(観察概要)

豊岡市小中一貫教育「豊岡こうのとりプラン」を全市に展開

～ふるさと豊岡を愛し 夢の実現に向け 挑戦する子どもの育成～

全国に先がけて平成19年度から取り組んできた小中連携教育の体験知を生かし、小中連携教育の実効性を一層高める豊岡市小中一貫教育「豊岡こうのとりプラン」を平成29年度から全市で展開

1 目的

第3次とよおか教育プラン（豊岡市教育振興基本計画）の基本理念「ふるさと豊岡を愛し夢の実現に向け挑戦する子どもの育成」を実現する。

(1) 義務教育の9年間における系統性と一貫性のあるカリキュラム「ローカル&グロ

ーバル学習の時間」で、子どもたちの夢実現力を高め、小さな世界都市を目指す豊岡の未来を創造する子を育成する。

- (2) 系統性と一貫性のある児童・生徒への寄り添い方で「学習指導と生活指導」にあたり、各中学校区の特色を生かしながら、豊岡市の3つの教育課題（不登校・学力の二極化・特別な支援が必要な子どもたちへの教育的ニーズに対応する問題）の改善を図る。

2 事業内容

(1) ローカル&グローバル学習

ア ふるさと教育

「コウノトリ」「ジオパーク」「産業・文化」を共通の学習課題にし、豊岡の「ひと・もの・こと」に学び、ふるさと豊岡を自分の言葉で語り誇れる力を育成する。

(ア) 各学校へ豊岡で活躍する人(ゲストティーチャー)の招聘

(イ) コウノトリの郷公園、市内のジオサイト、施設等を訪問し体験活動の実施

(ウ) ふるさと学習ガイドブックを活用し、豊岡の魅力を学ぶ授業の実践

イ 英語教育

小学校1年生から、外国語指導助手のネイティブな発音に触れる機会を通して、英語遊び⇒英語活動⇒英語科へと9年間の系統性と連続性のある学習で、英語でふるさとのこと、自分のことを語る力を高める。

(ア) 全小学校で「豊岡市英語カリキュラム」にのっとった英語教育の実施

(イ) 全小・中学校に外国語指導助手(ALT)を配置し、担任と連携した授業の実施

(ウ) 英語遊び保育との連動を意識した英語に触れる環境づくり

ウ コミュニケーション教育

グローバルコミュニケーションスキルの獲得を見据え、性別や年代を超えて、対等な関係の中で自分を主張し、他者を理解できる基礎的なコミュニケーション能力を育成する。

(ア) 「めざすコミュニケーション能力の育成の視点とその留意点一覧」「演劇的手法を取り入れた年間指導計画」「学習指導案」等に基づき、各校で授業を実践

(イ) 豊岡市教員の研修会を実施

(2) 学習指導と生活指導

ア どの子も分かる授業と肯定的な人間関係を構築することを一体化させ「授業で子どもに寄り添い、授業で学級をつくる」。

イ 子どもの声に耳を傾け、子どもの願いや課題を教職員が確実に共有し、引継ぐことで子どもに寄り添う支援・指導を行う。

ウ 「家庭でしつけ、学校で学び、地域で育てる」の視点で、学校、家庭、地域が一

層緊密に連携する。

(5) 所 感

学校教育法等の一部改正により、平成28年4月から小中一貫教育が制度化されたことにより、豊岡市では、平成19年度から取り組んできた小中連携教育の体験知を生かし、3つの教育課題の改善を図るため、また、所謂「中一ギャップ」解消を図るため、小中一貫教育「豊岡こうのとりプラン」を平成29年度から全市で展開しています。

豊岡市では、校長先生が中心となり、校長会のワーキンググループで検討が進められ、全教職員を対象に研修会を実施するとともに、「人口減少対策と地方創生」が教育の狙いとぴったり合ったこともあり、教育委員会のみならず市役所総出で、地域を巻き込んで計画が進んだということでありました。

この「豊岡こうのとりプラン」の中で特に感銘を受けたのが「ふるさと教育」であり、豊岡で活躍する人がゲストティーチャーとしてふるさと教育を行い、ふるさとを知りふるさとに誇りを持つことで、進学で地元を離れてもまた戻ってくるなど、U I J ターンに結びつくことも期待されることもありました。

そのほか、幼児期からの英語教育を「就学前英語遊び保育」という形で実施し、幼稚園・保育園・認定こども園に、市で予算化し講師を派遣していることや、演劇的手法を取り入れたコミュニケーション教育にも心が惹かれました。

この度の行政視察を踏まえ、子どもの教育は人づくりであり、まちづくりの基本でもあることから、今後の三沢市の更なる教育振興に取り組んで参る所存であります。

4 視察概要－2【京都府京丹後市】

(1) 訪問日時 平成29年10月18日(水)午前9時30分～

(2) 対応者 市議会議長 松本 経一 氏

担当課 企画総務部企画政策課 主任 小西 宏和 氏

(3) 視察項目

公共交通政策「上限200円バス」「デマンド交通」について

(4) 概要

(京丹後市の概要)

京丹後市は、京都府北部、丹後半島に位置し、沿岸部は山陰海岸国立公園、丹後天橋立大江山国定公園に指定され、内陸部には標高400～600mの山々が連なる。京丹後市では、リアス式海岸部の良好な湾や入江を通して、古代から大陸・朝鮮半島と活発な交流が行われてきた。

近世には回船業や丹後ちりめんの生産がまちの産業を支え、今日では、新たに機械金属工業・観光産業がまちの発展を担いつつある。

京丹後市は、平成16年4月、峰山・大宮・網野・丹後・弥栄・久美浜町が合併し、

市制を施行。

人 口 56,276人(平成29年4月末現在)

面 積 501.84平方キロメートル

(視察概要)

京丹後市のさまざまな公共交通施策について

《多様なアプローチ》

◆路線バス(平成18年度～現在)

低額運賃を導入「上限200円バス」

「700円×2人」ではなく、「7人×200円」の取組へ
便利になり、喜んでいただき、好循環の「輪」が広がる。

バス運賃の最高1,150円を上限200円に。

①輸送人員が年間2倍超 ②運賃収入も年間30%増 ③行政コストを年間18
百万円減

便利になり、喜んでいただき、好循環の「輪」が広がる。

市民みんなで、公共交通を利用し、応援。

<バス交通の主な取組み経過等>

平成17年12月 大規模な市民アンケートを実施

平成18年10月 上限200円バスの実証運行開始(路線バスの一部路線(4路
線)の運賃を上限200円に:区間運賃最大700円→200円)

平成19年10月 上限200円バスの運行を市内全域に拡大
(区間運賃最大1,150円→200円)

平成24年10月 運行開始から6年連続で利用者数が継続(2.3倍増)、運賃
収入も30%増

平成26年 4月 消費税の運賃への転換は行わず、運賃200円のブランド化を
死守。

◆地域鉄道(平成23年度～現在)

抜本的な利用促進策 「高齢者200円レール」「高齢者利用3倍増」を設定し、
最高1530円を上限200円に

鉄道を身近な乗り物に

①輸送人員が3倍超

②生きた公費負担に改善

③外出支援で歩いて元気

◆EV(電気自動車)乗合タクシー

H27.10.1～現在 民間タクシー撤退後の移動手段の確保

丹後海陸交通(株)が運営、年中無休・予約制

乗車できる地域(地城市内網野町・久美浜町内)から、同地域内の降車は一人運賃
500円、同地域外への降車は旧町毎に250円が別途加算。

◆ささえ合い交通

旧丹後町は町内のタクシー営業所が平成20年10月に撤退。路線バスは幹線道路のみ1日10数本しかなかった。平成26年7月14日からデマンドバスが運行され、この実績があったことから、H28.5.26からささえ合い交通を開始。

全国でも先進的な自家用車とICT（情報通信技術）を活用した地元NPO法人による道路運送法第78条第2号に基づく「公共交通空白地有償運送」である。

1. スマートフォンアプリを介し、ボランティアドライバー（18名）の自家用車を活用。
2. 携帯電話を介して、ユーザーとドライバーがマッチングされる。
3. 乗車は旧丹後町のみ、降車は京丹後市全体。
4. 料金は、最初の1.5kmまで480円、以遠は120円/km。
5. クレジットカードによる自動決済がラクチン。

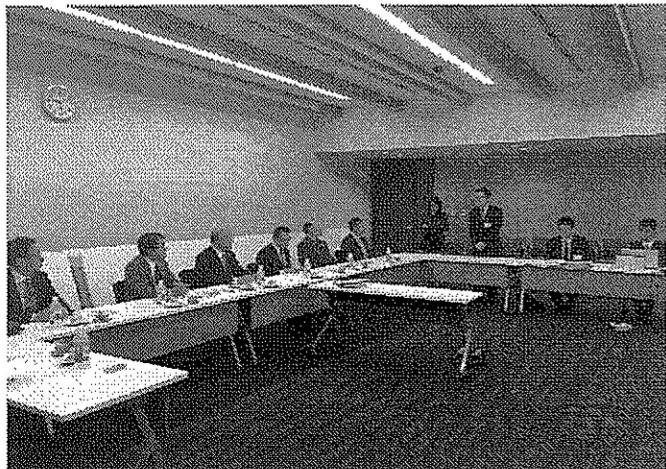
（5）所感

京丹後市の公共交通政策の中で、1,000円以上のバス料金を、利用者を増やすことで、市内全域で「上限200円バス」を実現し、行政コストを減少させた取り組みに、特に関心があり行政視察をさせていただいたところであります。

合併して誕生した京丹後市の公共交通政策として数々の取り組みが行われ、その成果は上述のとおりでありますが、現時点で公共交通政策にかかる市の負担が約3億円ということで、今後見直しの段階に入っていかざるを得ないだろうとのことでありました。

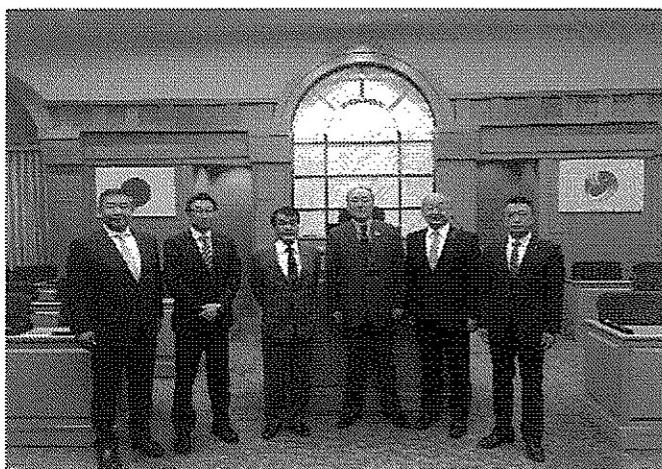
人口減少や過疎高齢化が進み、住民の移動手段の確保ますます重要な課題となる中、車を地域の足として活用する取り組みには、自家用車有償運送や乗合タクシー・バス、スクールバスの住民利用など様々な形があるようであるが、導入には自分たちの地域をどのようにしていくのかという視点が大切であり、地域の実情に応じた最適な公共交通のあり方を地域公共交通会議などで検討、合意形成し取り組んでいくことが求められており、三沢市の公共交通の利便性向上（停留所の増設、ルート見直し、料金の見直し、デマンド交通の導入など）、利用者を増やしながら、市の負担を増やさない取り組みが可能であるのか、或いは、負担が増えても高齢者の外出機会が増えることで健康増進効果等も期待されるといった考え方もあり、また、高齢者の運転免許証自主返納をめぐる動静など、いずれにしても誰もが安心して喜んで利用できる公共交通の実現のため取り組んで参る所存であります。

[総務文教常任委員会行政視察（兵庫県豊岡市）写真]



豊岡市

視察時全景

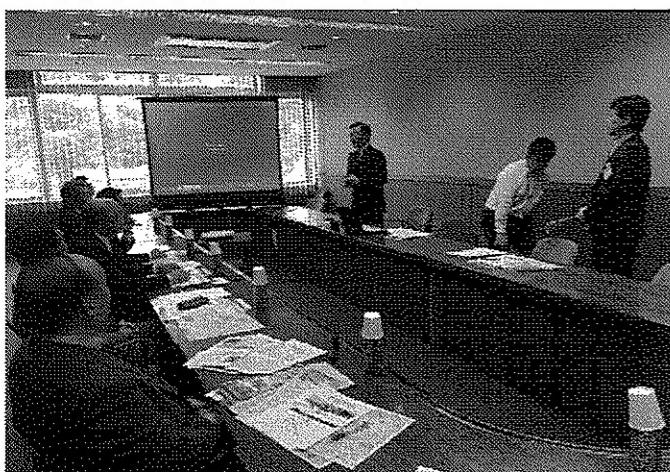


豊岡市

議場での

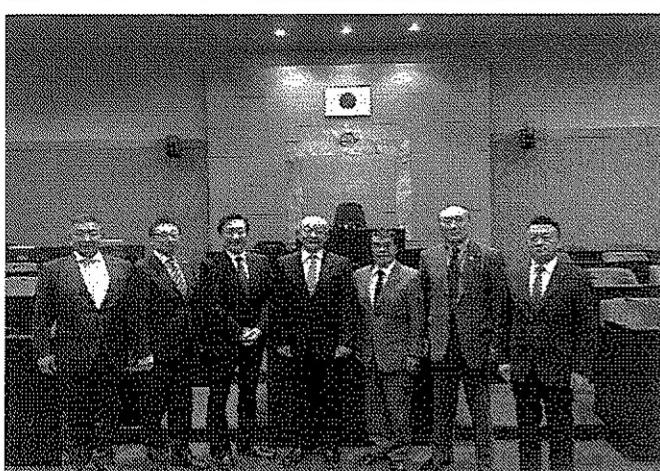
委員撮影

[総務文教常任委員会行政視察（京都府京丹後市）写真]



京丹後市

視察時全景



京丹後市

議場での

委員撮影